

教科書では
教えてくれない
日本の名作



出口 汪

著者略歴

出口 汪 (でぐち・ひろし)

1955年、東京に生まれる。関西学院大学文学部校講師、出版社・水王舎を本の近代文学。在学中、アルバイトで予備校の「作」がすごい!』『源氏物語解法を駆使した授業でたちまち人気講師となる。能力開発のための画期的な論理エンジンを制作。現在、私立だけでも二百以上の高校が正式採用している。デジタル予備校SPS主宰、東進衛星予備校講師、出版社・水王舎を経営。出口王仁三郎の曾孫。著書に『「漱石の名作」がすごい!』『源氏物語が面白いほどわかる本〈上〉〈下〉』（ともに中経出版）、『再発見 夏目漱石』（祥伝社）、『出口汪の新日本語トレーニング』（小学館）、小説『水月』（講談社）をはじめ、『出口のシステム現代文』（水王舎）シリーズなど数十点に及ぶベストセラー参考書を執筆、今までの累計部数は600万部を超えている。

ブログ <http://ameblo.jp/deguchihiroshi/>

まぐまぐ! 有料メルマガ <http://premium.mag2.com/>

ソフトバンク新書 119

きょうかしよ おし にほん めいさく 教科書では教えてくれない日本の名作

2009年12月22日 初版第1刷発行

著者: でぐち ひろし
出口 汪

発行者: 新田光敏

発行所: ソフトバンク クリエイティブ株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂4-13-13

電話: 03-5549-1201 (営業部)

編集協力: コーエン企画

イラスト: 高津ケイタ/ブックスプラス 桜井勝志

装 幀: ブックウォール

本文組版: 有限会社アミークス

印刷・製本: 図書印刷株式会社

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。定価はカバーに記載されております。本書の内容に関するご質問等は、小社学芸書籍編集部まで必ず書面にてご連絡いただきますようお願いいたします。

© Hiroshi Deguchi 2009 Printed in Japan

ISBN978-4-7973-5719-6

教科書では教えてくれない日本の名作

江苏工业学院图书馆
藏书章



出口 汪

はじめに

私が大学の文学部日本文学科に在籍していたのはおよそ三十年前、その後大学院に進み、修士課程、博士課程と近代文学を研究した。当時の文学部は学生の間でも確固たる地位を占め、とくに放送・広告・出版業界などマスコミ志望の学生に人気があつた。その際、アルバイトで始めた予備校講師の仕事が評判を呼び、いつの間にかカリスマ講師の称号をつけられてしまった。

三十年の月日は世の中を大きく変え、いつの間にか文学の衰退が声高に叫ばれるようになった。実際、文学部に進学する学生が急激に減り、文学部が閉鎖に追い込まれたり、他の学部と統合されるケースまでが後を絶たない。

また、出版界からは、文学全集の類いが売れない、純文学が売れない、といった嘆きも聞こえてくる。

だが、人々の関心が希薄になったのかというと、事実はその逆であるように思われる。最近、「カラマーズフの兄弟」きょうだい「蟹工船」かにこうせんなど文学作品のリバイバルや名作新訳

ブーム、名作古典の新装丁ブーム、また、太宰治^{だざいおさむ}生誕百年を記念して、その作品が続々映画化されている……等々、今、名作文学がブームとなっている。

人々は心の底では文学を渴望しているのではないか。

文学の深い面白さを欲しているのではないか。

それなのに文学が低調であつたのは、文学の専門家たちの怠慢によるものだ。文学の解説書の大半は専門家向けの精緻な研究成果の発表か、あらすじを紹介しただけのカタログ的なもので、文学の本当の面白さ、深さを誰にも分かる形で表現したものがあまりなかったように思う。

私は今、「論理エンジン」を始め、日本の教育を根底から変革しようと、講演や執筆活動にいそしんでいるのだが、私の専門は日本文学であるという強い思いは片時も脳裏から消えたことはない。

そこで、『源氏物語が面白いほどわかる本』『夏目漱石が面白いほどわかる本』（ともに中経出版）を執筆した。『あいか』という美少女を登場させ、私があいかに文学の面白さを講義するといったスタイルであり、幸いこの試みは好評を得た。

今回はこうした企画をさらに発展させ、日本の近代文学全体に切り込んでいこうと

思う。

私は今まで論理という武器で国語という教科を切ってきた。

今度は文学の面白さ、深さといったいちばん説明しがたいものを、論理という武器を駆使して、誰にでも分かるように紹介したい。

そのために今回もあいかを登場させようと思う。あいかは今という時代の息吹をたっぷり受けている女子高生である。

あいかは、漫画に音楽、ゲームに携帯小説とともに歩んできたが、文学とは無縁に生きてきた。それらを堪能しながらも、それだけでは飽きたらず、もっと深い世界を知りたいと文学が気になって仕方がない。

そんなあいかに文学の面白さを伝えることができるかどうか。
それが私にとっての冒険である。

出口 汪

目次◎教科書では教えてくれない日本の名作

はじめに 3

第一章 夏目漱石「こころ」 1₁₁

先生の自殺はなぜ「三十年後」なのか 14

「あなたはそなたたった一人になれますか」 21

「襖一枚」を隔てた孤独 30

Kの自殺の謎を解く 43

第二章 夏目漱石「こころ」 2₆₅

「不可思議な私」と「明治の精神」 66

明治の知識人たちに向けられた吐血の言葉 77

いい人が瞬時に悪人に変わる——心の不可思議さ 81

「明治の精神」から続く私たちの「寂しみ」の正体 85

第三章 おさらい・3分でわかる日本文学 89

自然主義への反発から生まれた三つの文学潮流 91

第四章 芥川龍之介「地獄変」 101

醜い天才老人絵師が描いた地獄絵図 102

「芸術至上主義を象徴した作品」説への異論 111

娘はなぜ生きながら焼かれたのか 133

第五章 谷崎潤一郎「春琴抄」 153

奇妙な男女の関係——恋愛、それとも主従？ 155

肉体の交渉を含まない愛の姿 167

第六章 川端康成「伊豆の踊子」 181

プロレタリア文学と大正デモクラシーの時代 183

魂の救済を描いた小説 189

少女が女になろうとする瞬間 198

第七章

太宰治「女の決闘」 213

自分を滅ぼすことが誠実の証し!? 215

演技者・太宰の仕掛け 218

作品中の「芸術家」とは太宰その人? 224

「おれは苦しい」——太宰お得意のポーズ 230

太宰の隠れた本音を発見! 234

「自分で自分を笑う」ということ 241

第八章

三島由紀夫「憂国」 245

テーマは「太陽・肉体・官能」 246

完璧な肉体、そして天皇の神威 251

肉の欲望と憂国は表裏一体 257

三島が咲かせた文学の花 263



私の名はあいか。

可憐な乙女です。一応高校生をやっているのだけど、勉強はあまり好きではありません。好きなのは音楽と漫画、それにテレビのバラエティ番組とゲーム、特にゲームには嵌っています。後は、アイスクリーム。

夏目漱石や芥川龍之介は教科書で習いました。でも、難しくて分からない。第一、古めかしくて時代遅れ、なぜ今それを読まなければならぬのか、ちつとも分かりません。

携帯小説の方がずっと今風で、感動します。でも、出口先生が文学の面白さを教えてくれるって言うのだから、ちよっとくらい挑戦しようかなって。

私も世の中のことを知って、そろそろ大人にならなくちゃ、ね。

ということで、今日から文学講義が始まるよ。

 はい。先生、私にでも分かるように、ちゃんと教えてね。

任せておけ。あいかに分かるなら、誰にでも分かるから。これは僕にとってもやりがいがある。

 失礼しちゃうわ。

なつめ そうせき
夏目漱石（一八六七～一九一六年）

森鷗外とならび明治、大正時代を代表する文豪。江戸に生まれる。東京帝国大学英文科卒業。英国留学後、教職を経て朝日新聞の専属作家となる。三十八歳のときに発表した「吾輩は猫である」で一躍人気作家となる。「坊っちゃん」「三四郎」「それから」「行人」「こころ」「道草」「明暗」などの作品がある。

第一章

夏目漱石「こころ」1

まずは文豪といえはこの人、夏目漱石の「こころ」を取り上げよう。読んだことがある？



もちろん。といっても、教科書で、作品の一部を読んだだけだけど。

確か、先生という人が主人公で、若いとき友達のKという人を裏切って、えゝと、そのKが自殺したので、先生も自殺してしまったって話？

半分正解で、半分不正解。



えっ、どこがおかしいの？

あわ慌てない。その答えは、これから作品を読んでいく中で、おのずと分かってくるはずだ。

「こころ」も実に謎の多い作品なんだよ。こんな難しい話、高校生に分かるはずがない。



でも、私、感動したわ。私の友達もけっこう「こころ」に感動していたみたい。

それはね、漱石の文章がすごいからなんだ。本当は半分も理解できていないんだけど、この世界の深さを直感的に感じて、みんな感動するんだ。



文学者って、何かいつも苦しんでいるイメージがあるけど、やっぱり漱石おじさんも苦悩したの？

もちろん苦しんだとも。胃に穴が空き、そこから血を流して、最後は血を吐きながら死んでしまうほどに苦悩したんだよ。



いったい何をそんなに苦しんだのかしら？

漱石が苦しんだのは、近代人の知性、そして人の心の奥深くに潜んでいるものについてなんだ。

先生の自殺はなぜ「三十年後」なのか

さて、「こころ」の謎だけど、先生はどうして自殺したと思う？

若いとき親友のKを裏切つて、お嬢さんと結婚した。そのため、Kが自殺しちゃったものだから、先生は良心の呵責かしやくに耐えかねて――。

本当に、そう？

えっ、違うの？

本当にそう書いてあった？

えーと、そう言われると、何だか自信がなくなっちゃう。

それじゃあ、Kはどう？ Kはどうして自殺したの？



それなら分かる。だって、Kは先生に裏切られ、お嬢さんに振られたんだもの。

本当？



えっ、これも違うの？

何だか先生から追及されると、自信がなくなっちゃうわ。

実は、Kは自殺の理由を誰にも言わなかったんだ。

だから、誰にもKの死んだ理由は分からない。

Kの死んだ理由が分からない以上、先生は自殺することもしないはずだ。



そりゃあ、そうだけど。

あつ、そうだ、Kは確か遺書を書き残していたはず。